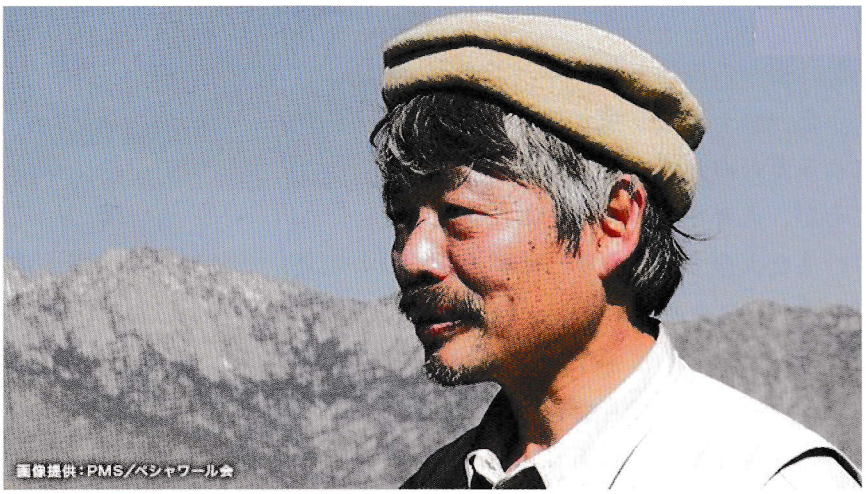
映画 **荒野に希望の灯をともす**

医師・中村哲
戦火の中で病を治し、井戸を掘り、用水路を建設した
中村は何を考え、何を目指したのか？

自主上映
2023. 8. 20



～医師・中村哲　現地活動３５年の軌跡～



後援　桑名市・桑名市教育委員会

日時

８月２０日（日）
１回目　9：30 開場
10：00 上映
２回目　13：30 開場
14：00 上映
上映時間 1 時間 30 分

会場

柿安シティーホール
２階　小ホール
桑名市中央町３丁目 20

入場無料

カンパ要請あり

映画
「荒野に希望の
灯をともす」を見る会
連絡先
090-3156-7115　寺尾
090-4868-3721　清水

---切り取り---

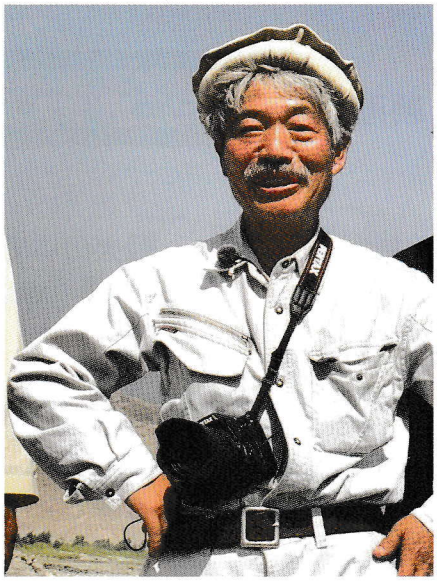
入場整理券

入場無料　入場の際に受付へお渡しください

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿　ご連絡先（TEL）＿＿＿＿＿＿＿＿

よろしければ、ご記入ください

アフガンで井戸を掘り、用水路を造り、砂漠を緑にした医師・中村哲さんの言葉



●「彼らは殺すために空を飛び、我々は生きるために地面を掘る」

誠実な人柄が信頼され、医療支援が順調に進んでいた2000年、大干ばつで人々は命を落とし農業は壊滅、医療で人々を支えるのは限界だった。中村は大河クナールから水を引く用水路の建設を決断する。戦火の中、無謀といわれる挑戦が始まった。

●「ここには天の恵みの実感、誰もが共有できる希望、そして飾りのないむき出しの生死がある」

前代未聞の大工事は苦難の連続だった。数々の技術トラブル、アフガン空爆、息子の死・・、中村はそれらを一つ一つ乗り越え７年の歳月をかけて用水路を造り上げた。いま６５万人の命が支えられている

●「裏切られても裏切り返さない誠実さこそが、人々を動かすことができる」

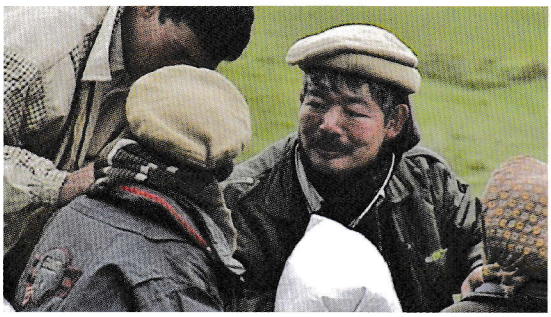
アフガンの人々は親日的だが、軍事行為を支援すれば日本への信頼は損なわれる。それゆえ自衛隊派遣は有害無益だと批判した。自衛隊の難民支援も役にたたないとし、「日本にできることは」との問いに「平和回復後の建設事業で、他の国にはできない貢献ができるはずだ」と答えた。

●「平和には軍事力以上の力がある。国是である平和主義を非現実的だと軽んじ、米国の軍事力行使だけでなく、自衛隊の派遣すらも是認しようとする日本の風潮は危険かつ奇怪だ」

米軍のアルカイダ掃討作戦による誤爆が頻繁に起こり、アフガン民衆の敵意が高まる。人道支援に赴いた国連組織への住民による襲撃も起きる。現地は復興援助が軍事介入とセットになっており、民衆からかけ離たものになっているとして反発する。

●「『殺さない』ということの結実が憲法９条だ。９条を壊すことは日本の良心を壊すことになる。戦争を次々しないと成り立たないような、自然を相手に汗水たらして働く人が損をするような社会は長続きしない」

平和とは平和や安全を生み出す積極的な力である。私たちはもっと自信を持つべきだ。



●「憲法９条を持つ『平和国家・日本』というブランド、その信頼に助けられて何度も命拾いしてきた」

アフガンではヒロシマ・ナガサキを知らない人はいない。戦後原爆投下の廃墟から驚異的な速度で復興を果たし、一度も他国に軍事介入したことのない姿を称賛する。憲法９条を具現化してきた国のあり方が信頼の源になっている。

☆ペシャワール会/ＰＭＳについて（ペシャワール会ホームページより）

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成された国際ＮＧＯ（ＮＰＯ）団体です。また、ＭＰＳ（略：Peace(Japan) Medical Services）は、平和医療団・日本 総院長の中村哲医師率いる現地事業体です。

ＰＭＳは医療団体ですが、病気の背景には慢性の食糧不足と栄養失調があることから、干ばつにより沙漠化した農地の回復が急務だと判断し、今なお進行する大干ばつのなか灌漑水利事業に重きを置いて、現在はダラエヌール診療所、農業事業、灌漑事業、訓練所でのPMS方式取水技術の普及活動に職員一同尽力中です。

◎2019年12月、さらなる用水路建設に邁進する最中、中村は何者かの凶弾で命を奪われた。

＜映画「荒野に希望の灯をともす」を見る会　参加団体＞

新日本婦人の会桑名支部、全日本年金者組合桑名支部、桑名員弁民主商工会、戦争法の廃止を求める桑名市民の会、桑名９条の会、3・11を忘れない桑名の会、2023年原水爆禁止世界大会桑員実行委員会、日本キリスト教団桑名教会、劇団すがお、NPO法人地域資源ネットワークみえ、みえ医療福祉生活協同組合（桑名）、桑員9条の会、憲法9条を守る会 in いなべ　＜順不同＞